

もの言う牧師のエッセー 第238話

「舛添さんだけじゃない」

東京都知事の舛添氏が袋叩きにあっている。しかし、東京都知事の豪遊、税金での贅沢三味は、石原慎太郎・都知事の時代から始まっており、今に始まったことではない。それどころか、1999年から2012年まで続いた石原都政での知事の"公私混同"は舛添都知事を遙かに上回っていた。

例えば04年には、徳洲会理事長の徳田虎雄氏や文芸評論家の福田和也氏など、殆どが石原氏の友人やブレーンである石原氏の"お友達"とのメシ代に高級料亭などを使って一回に数十万単位の税金が湯水のように費やされた。さらに、海外視察も豪華なもので、彼は01年6月、ガラパゴス諸島を視察し、往復の航空運賃は143万8000円、無論ファーストクラスを利用していたとみられ、さらにこの視察で石原氏は4泊5日の高級宿泊船クルーズを行ない、本人の船賃だけで支出が約52万円。この金額は2人部屋のマスタースイートを1人で使った場合に相当。なお、随行した秘書などを含む"石原様御一行"の総費用は約1590万円。石原氏が都知事に就任してからの19回の海外出張のうち、資料が入手できた15回だけで総経費が2億4千万を超え、中でも06年5月からのロンドン・マン島出張では、本来の目的である五輪の調査は実質約1時間半にもかかわらず、マン島でのオートバイレース見物などをして3600万円もの経費をかけたなどなど。

まだある。舛添氏は「災害時も都民そっちのけで湯河原ざんまい」などと叩かれているが、実は、石原氏の登庁は週平均で僅か3日程度、都知事でありながら出勤すらせず"行方不明"になっていたことが多く、いま問題になっている"緊急時に連絡がつかない"ことが常態化していたようで、"湯河原にいる"と所在が分かっている舛添氏の方がマシに見えたりする。

かと言って、石原氏は人気があったし、れっきとした選挙で選ばれた人間だ。それは、やはり金銭がらみで辞めちゃった前任者の猪瀬直樹氏もそう。"号泣県議"もそう。愛知県知事をはじめファーストクラスに乗るお歴々や、文書通信交通滞在費を巡り「適切に使っているから領収書を付ける必要はない」などとすっとぼけたことを言う大臣や政党幹部たちも同様だ。聖書は警告する。

「わざわいなことよ。あなたの王が子どもであって、あなたの首長たちが朝から食事をする国は。

幸いなことよ。あなたの王が貴族の出であって、あなたの首長たちが、酔うためではなく、力をつけるために、定まった時に、食事をする国は。」伝道者の書10章16-17節。

これは今から約3000年前、イスラエルの黄金時代を築き上げたソロモン王の言葉である。神の祝福を受け我が世の春を謳歌したイスラエルだったが、その後、彼らは神の道から外れ、下は一市民から上は王に至るまで墮落し、滅亡への道を進んで行く。税金で贅沢三昧の政治家と、無知で子供のような人々、相手次第で態度を変え袋叩きにするマスコミ。ああ、日本は亡国への道を進んでいるのか。だが、その滅亡の危機の時にこそ、キリストは帰って来るのかも知れない。。。

2016-6-10

